

新しい
暮らし方に
目覚める
フランスの本を通して考える
エコロジー

どう生きれば森を壊す側から森を作る側へと
変わるのだろうかと思ったことがきっかけです。

福岡 大樹(福岡正信自然農園園主)

ふるさとを愛する気持ちが
私のエネルギーです。

小泉 進次郎(衆議院議員・環境大臣(第27・28代))

ワンハンドビーチクリーンが広まれば、
みんなが綺麗な海で気持ちよく
サーフィンができますと思います。

田岡 なつみ(プロサーファー)

世界の見方を変えることが第一歩かと思います。

丸山 亮(翻訳家)

葉について

この葉には、フランスの国花のひとつ、ひなげしの種子が織り込まれています。
環境と調和した暮らしの一歩として、皆様の手で種子を育てて頂けることを願って。

Plantit®

有機の種を織り込んだ伝統の和紙がプチプランティット。
プランターに入れるだけで、かんたんに栽培できます。

栽培方法は
こちらを
ご覧ください



S'éveiller
à un nouvel
art de vivre

Lectures françaises
au Japon pour
appréhender
les défis écologiques.

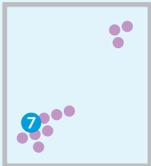
アンスティチュ・フランセと在日フランス文化機関ネットワーク L'IFJ ET LE RÉSEAU CULTUREL FRANÇAIS AU JAPON



Liberté
Créativité
Diversité

フランス政府公式機関

- 1 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ
Ambassade de France/ Institut français du Japon
〒106-8514 東京都港区南麻布4-11-44 フランス大使館内
- 2 東京日仏学院 Tokyo Institut français de Tokyo
〒162-8415 東京都新宿区市谷船河原町15
tokyo@institutfrancais.jp tel. 03-5206-2500
- 3 横浜日仏学院 Yokohama Institut français de Yokohama
〒231-0015 横浜市中区尾上町5-76 明治屋尾上町ビル7階
yokohama@institutfrancais.jp tel. 045-201-1514
- 4 関西日仏学館 Kansai Institut français du Kansai
【京都 KYOTO】
〒606-8301 京都市左京区吉田泉殿町8
kansai@institutfrancais.jp tel. 075-761-2105
【大阪 OSAKA】
〒530-0041 大阪市北区天神橋2-2-11 阪急産業南森町ビル9階
kansai.osaka@institutfrancais.jp tel. 06-6358-7391
- 5 ヴィラ九条山 Villa Kujoyama
〒607-8492 京都市山科区日ノ岡夷谷町17-22
contact@villakujoyama.fr tel. 075-761-7940
- 6 九州日仏学館 Kyushu Institut français du Kyushu-Okinawa
〒810-0041 福岡市中央区大名2-12-6 ビルF
kyushu@institutfrancais.jp tel. 092-712-0904
- 7 アンスティチュ・フランセ沖縄
〒900-0015 沖縄県那覇市久茂地2-15-3 嘉栄産業ビル5階
okinawa@institutfrancais.jp tel. 098-975-7501



TOKYO 日仏会館・フランス国立日本研究所 IFRS-MFJ
東京国際フランス学園

Lycée français international de Tokyo

KYOTO 京都国際フランス学園

Lycée français international de Kyoto



Liberté
Créativité
Diversité

vivre
les
cultures



Alliance Française
JAPON

フランス政府公認機関

- 8 札幌アリアンス・フランセーズ Alliance française de Sapporo
bureau@afsapporo.jp tel. 011-261-2771
- 9 仙台日仏協会・アリアンス・フランセーズ
Association Franco-japonaise Alliance française de Sendai
contact@afsendai.com tel. 022-225-1475
- 10 アリアンス・フランセーズ 愛知フランス協会
Alliance française Association France Aichi
afnagoya@afafa.jp tel. 052-781-2822
- 11 アリアンス・フランセーズ徳島 Alliance française de Tokushima
aftokushima@hotmail.com tel. 088-655-8585

Il n'y a pas un millimètre au monde qui ne soit savoureux

Jean Giono, Les Vraies richesses

“この世には美味でない場所など、
これっぽっちもありません”

ジャン・ジオノ、『本当の豊かさ』

気候変動はもはや遠い未来の話ではありません。それは現在、そしてすぐ目の前の未来に差し迫った問題であり、私たちには行動を起こす義務があります。環境に配慮した持続可能な暮らし方を新たに生み出せるかどうかは、あらゆる世代を含む私たち市民の手にかかっています。

フランスと日本はともに暮らしにこだわりを持つ国です。フランスでいえば礼儀作法、日本でいえばわび・さびの感覚がこれにあたるでしょう。一方は社交上の倫理であり、もう一方は美学としての倫理です。さらには食卓の作法、美食、一期一会、「もったいない」など、暮らしの美学にまつわる言葉を数え上げればきりがありません。

ここに紹介するフランスの書籍や日本の著名人からの寄稿文は、地球を私たちの関心の中心に据え直す「新しい暮らし方」をともに生み出すための手がかりとなるでしょう。地球をめぐる、思想家ブルーノ・ラトゥールのガイア、そして探検家の角幡唯介氏とミシュラングリーンスターシェフの中塚直人氏の経験が重なり合います。

Charles-Henri BROSSEAU シャルランリ・ブローゾー
Directeur de l'Institut français du Japon アンスティチュ・フランセ日本代表
Conseiller culturel, Ambassade de France 在日フランス大使館 文化参事官

Les mots de la modernité

現代の用語

新たな時代

Anthropocène 人新世

「人新世とは、人間の到来を地球に起きた変化の主たる要因とする地質学上の新しい時代区分です。この区分は、人間が地球に与えた変化が地球物理学の原理を逸脱していることを表しています。つまり、『人間の時代』ということです。以来、かつてない混乱が地球規模で発生しています」

フランソワ・ジュメンヌ、マリヌ・ドニ、2022年

新たな社会

Développement durable 持続可能な開発

持続可能な開発とは、「現代の世代の要求を満たしながらも、将来の世代がその要求をかなえる可能性を阻害することのない開発のことです」(ノルウェー首相グロ・ハーレム・ブルントラント、1987年)。持続可能な社会モデルは、効率的な経済、公正な社会、持続可能な環境という3つの柱および原理によって成り立っています。

新たな政治の概念

Ecologie エコロジー

エコロジーとは第一に、種々の生物(生物多様性)が周囲の環境およびその環境内に生きる生物同士の間で取り持つ相互作用を研究する科学のことを指します(この環境を総称して「生態系」といいます)。

エコロジーは同時に政治・社会的な概念でもあり、生態系、生物多様性、環境全般の保護を掲げる政治運動も起こっています。これらの政治運動は、復元力を備え、永続的な形で環境と共存できる人間社会の形成を目指しています。

危機

Réchauffement climatique

気候変動

地表の平均温度の上昇を特徴とする気候の変化のことです(ラルース百科辞典より)。気象・生態系のバランスに継続的な影響をおよぼします。

解決策

Protection de l'environnement 環境保護

環境保護とは、人間の活動が環境に与える悪影響を抑止ないし除外するための手立てを実施することです。

Eux aussi agissent pour l'environnement

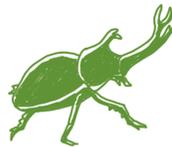
環境のために行動を起こす日本の人たちを紹介します。
環境問題を前に、私たち一人ひとりにできることは何かを考えてみましょう。

Hiroshi KITO

日本大学理事・静岡県立大学特別顧問・上智大学名誉教授
鬼頭 宏さん

Q2 Answer

小学生の時に読んだ、ジャン=アンリ・ファーブルの子ども向けに書かれた伝記と昆虫記である。虫たちが見せる多様な生き様を、地面に這いつくばって観察する姿勢は、私の歴史人口研究者としての原点となっている。



Shinjiro KOIZUMI

衆議院議員・環境大臣(第27・28代)
小泉 進次郎さん

Q1 Answer

自転車に乗ることで。息子を後ろに乗せて外出するために買ったことがきっかけでしたが、車より環境にいい移動手段ということだけではなく、風が気持ちよく、渋滞のストレスもなく、一石二鳥以上です。



Q2 Answer

海や自然豊かな神奈川県横須賀市に生まれ育ったことが、環境に対する意識を強く持てるようになった最大の理由だと思う。ふるさとを愛する気持ちが私のエネルギーです。

Q1. 環境に配慮した行動として、どのようなことをなさるのがお好きですか？

Q2. 環境のことを考えて行動しよう、と思われたのは、どのような事がきっかけでしたか？

Takahiro SUZUKI

近畿大学教授
鈴木 高広さん

Q2 Answer

化粧品会社で紫外線から肌を守る化粧品の研究を行っていたとき、植物はなぜ日光が平気なのかという疑問をもち、植物も紫外線が苦手なため、ポリフェノールをつくり紫外線を防いでいることに気づきました。紫外線でも分解しないポリフェノールは、石炭の起源です。また、地球の大気に酸素もオゾン層もなかった30億年前に誕生した光合成単藻のシアノバクテリアも、海面近くで光合成を行うためには、紫外線を防ぐポリフェノールのような油が必要だったことに気づきました。この油が、石油の起源です。化粧品の研究に導かれた「紫外線」との出会いは、地球温暖化を防ぐバイオ燃料や食料資源を大量につくりだす研究のヒントになり、近未来の人類を救う芋エネルギーの研究に取り組んでいます。



Natsumi TAOKA

一般社団法人日本プロサーフィン連盟 公認 プロサーファー
田岡 なつみさん

Q1 Answer

サーフィンをした後に、海への感謝の気持ちも込めて、サーフボードを持っている別の片方の手で拾えるだけのゴミを拾って帰るワンハンドビーチクリーンをしています。

このワンハンドビーチクリーンが広まれば、みんなが綺麗な海で気持ちよくサーフィンができると思います。

普段から、マイバックマイボトルを携行し、なるべくプラスチックを使わない生活を心がけています。

Q2 Answer

大学生の時、オーストラリアに留学に行った際ホームステイのファミリーが環境を考えた生活を送っていて、素敵だなと思い、私もはじめました。



Sakiko Takegami et Ryo Maruyama

翻訳家

竹上 沙希子 さん丸山 亮 さん



Q1 Answer

暮らしや仕事を環境に配慮した形に少しずつ変化させていっています。最近では湯たんぽを使い始めました。国産の陶器にオーガニックコットンの袋に入れてあります。以前知り合った素敵な笑顔の方が代表の会社から購入しました。商品でも食材でも販売者や生産者の想いや物語を聞きながら買うのが好きです。(竹上沙希子)

Q2 Answer

きっかけはシリル・ディオンの本を訳したことです。それまでエコロジーといえば、どこか遠くで起きている話という印象でしたが、知ることによって、それが身近ものへと変わりました。もちろん、現代の問題はいわゆる小さな行為では解消できないほど進行していますが、世界の見方を変えることが第一歩かと思います。(丸山亮)

Hiroki FUKUOKA

福岡正信自然農園園主

福岡 大樹 さん



Q1 Answer

私は常に自然との強い関りを持って生活をしています。そこには自然が作り上げた環境があり、それにより素晴らしい実りがあります。そのエネルギーを消費するのではなく、増大する方法を模索する事が好きです。

Q2 Answer

子供の頃祖父の影響もあったと思うのですが、樹齢数百年の木々を伐採し森を切り開く映像を見て悲しくなり、どう生きれば森を壊す側から森を作る側へと変われるのだろうと思ったことがきっかけです。私の名前は大樹、大木を意味します。

Q1. 環境に配慮した行動として、どのようなことをなさるのが好きですか？

Q2. 環境のことを考えて行動しよう、と思われたのは、どのような事がきっかけでしたか？

Rico HONDA

デザイナー・一般社団法人総合デザイナー協会(DAS)理事

本多 り子 さん



Q1 Answer

数年ぐらい前まで、ショッピングが大好きな私は環境に対する意識とどう向き合うか答えが出せませんでした。今は、無理なく私らしくをモットーにものを増やさない=ゴミを出さない暮らしを目指しています。

Q2 Answer

伝統工芸のリブランディングデザインに携わった時に、昔から日本には少ないことを楽しむ文化がありそれはとても発想豊かな暮らしだと気がつきました。それをきっかけに私も今あるものを大切に作る暮らしになったと思います。

Yuki MATANO

株式会社つぐぐ 代表取締役

俣野 由季 さん



Q1 Answer

自分が購入・所有するモノ全てに責任を持ち、増やしすぎず、大切にするのが好きです。食品は必ず使い切る計画を立てます。お気に入りのモノだけに囲まれて、スーツケース一つで身軽に動けるくらいになるのが目標です。

Q2 Answer

ドイツの小さな都市に留学したとき、住民の環境への意識の高さにカルチャーショックを受けました。ごみの分別や自然の素材を愛でる考え方が国民一人一人に根付いていて、街が自然と調和しており、心の豊かさを感じました。

Q1. 環境に配慮した行動として、
どのようなことをなさるのが好きですか？

Q2. 環境のことを考えて行動しよう、と思われたのは、
どのような事がきっかけでしたか？

Naoto NAKATSUTA

レストラン ノー・トーキョー
(ミシュラングリーンスター2022、2023獲得)

中塚 直人 さん

Q1 Answer

店内の建築に使われている資材や備品（店内の壁、テーブル、扉などの木材、タオル、食器、ナフキン、メニュー表、カトラリー）などはリサイクルが可能なものや、環境に配慮されて作られたもの、ペーパーレスなど、お客様に何か環境について考えるきっかけになればと選んでおります。料理に関しましては使い切る、無駄をなくすことを念頭においており、非可食部につきましてはコンポストを設置し土に返す取り組みをしております。

Q2 Answer

多くの生産者様と出会い正しい自然を未来に残すこと、土や水、空気を大切にすることを学び、料理人として自分にできることは何かを考えたことがきっかけです。



レストラン ノー・トーキョー
<https://noeud.tagaya.co.jp>



レストラン ノー・トーキョー
中塚 直人 さんのレシピ

蕪のロースト 蕪の葉ソース (2人前)

【材料】

・蕪(葉付き)10cmくらいのも	2個
・オリーブオイル	適量
・くるみ	5つぶ
・レモン	1/2
・塩	適量
・パルメザンチーズ	大さじ1
・アンチョビ	1枚



- 1 根の部分と茎と葉をそれぞれ切り分ける。
- 2 根の部分1個分を皮ごと塩とオリーブオイルを回しかけ、アルミホイルに包み柔らかくなるまで180度のオーブンで火を通す。もう1つ分はスライスして水を貼ったボールに入れ、シャキッとしたり水気を切っておく。
- 3 茎を小口切りに刻み、オリーブオイルで炒め細かく刻んだくると合わせ塩で味を調整する。
- 4 レモンの皮を下ろし金で擦り、身部分をふさからとりわけ細かく刻む。
- 5 3と4を合わせる。
- 6 葉を軽くゆでアンチョビとパルメザンチーズ、オリーブオイルを加えミキサーで滑らかになるまで攪拌する。
- 7 焼き上がった蕪の表面をバーナーで焦がす。
- 8 お皿に葉のソースを敷き1/2にカットした蕪の断面を上にして5を乗せる。
- 9 蕪のスライスに塩とオリーブオイルをかけ上に盛り付ける。

Chapitre 1

Que nous disent les penseurs ?

思想家が 教えてくれること

ブルーノ・ラトゥール、フィリップ・デスコラ、バティスト・モリゾの3名は、いずれもエコロジーをめぐる思索の端緒となる思想家です。2022年10月に亡くなったラトゥールは現代エコロジーの思想家であり、「ガイア」とは何かを読者に考えさせます。著名な人類学者のデスコラは、「自然」と「文化」という2つの概念の成り立ちについて教えてくれます。モリゾは、人間と他の生物との関係を見直す地政学について語ります。

まず、種をまく



Bruno Latour ブルーノ・ラトゥール

2021年に京都賞(思想・芸術部門)を受賞したブルーノ・ラトゥールは、2022年にこの世を去りました。人新世の思想家を代表する人物です。

1947年ポーヌ生まれ、2022年10月没。パリ政治学院のメディアラボ名誉教授として、長期にわたり実験的政治芸術プログラム(SPEAP)で教鞭をとった。マルタン・ギナルとともに、「クリティカルゾーン」に関する2つの展示のキュレーションを務めた。“Critical Zones, Observatories for Earthly Politics”展は、2020年5月から2022年1月にかけてドイツのカールスルーエ・アート・アンド・メディア・センターにて開催され、“You and I don't live on the Same Planet”と題された台北ビエンナーレは、2020年11月から2021年2月にかけて開催された。2013年ホルベア賞受賞、2021年京都賞受賞。複数の国際学会の会員を務めた。



Où suis-je ?

我々はどこにいるのか(仮題)

ブルーノ・ラトゥール / 著
川村 久美子 / 訳
2023年中 新評論

コロナ・パンデミックの経験が人類にもたらしたものは、「個」「自然」「経済」「地球」が描く客観的世界の虚構性(=不在)である。2021年に刊行されたラトゥールの最新にして最後の単著。



Où atterrir ?

地球に降り立つ
新気候体制を生き抜くための政治

ブルーノ・ラトゥール / 著
川村 久美子 / 訳
2019-12 新評論

パリ気候協定後の世界とトランプ現象の根幹をどう理解し、思考の共有を図るべきか。名著『虚構の「近代」』著者からのメッセージ!



Face à Gaïa

ガイアに向き合う

ブルーノ・ラトゥール / 著
川村 久美子 / 訳
2023年春 新評論

2015年に刊行されたラトゥールの代表作。古代宗教・ギリシャ神話から現代科学まで、人類史における思想的営為を多元的に分析し、現代の「気候危機」の実像をあぶり出す。



Nous n'avons jamais été modernes

虚構の「近代」
科学人類学は警告する
ブルーノ・ラトゥール / 著
川村 久美子 / 訳
2008-07 新評論

本書は異彩を放つ近代論であり、近代社会に対する警告の著である。地球温暖化など科学だけあるいは政治だけでは解決できないハイブリッド(混成物)がいまや巷に氾濫しているが、私たちはこれにうまく対処できていない。著者は近代社会の特徴といわれる「自然と社会の分断」にそれを結びつけ、危機の処方箋を描くのであるが、この十分に説得的な著者の近代分析は目が覚めんばかりに先鋭的である。



L'économie, science des intérêts passionnés
情念の経済学
タルド経済心理学入門
ブルーノ・ラトゥール / 著
中倉 智徳 / 訳
2021-01 人文書院

全く新しい経済学思想アクターネットワークセオリーの原点 金融においてこそ、数値化と心理学化が結びついていることを主張する、まさに現代に読まれるべき書物でもある。いまだ知られざるその革新的な思想の魅力を、「タルドの弟子」を自称するラトゥールが伝える一冊。



Sur le culte des modernes des dieux faitiches

近代の〈物神事実〉崇拝について
ブルーノ・ラトゥール / 著
荒金 直人 / 訳
2017-09 以文社

「事実」とは何か? 「物神」とは何か? そして、なぜ聖像/偶像は破壊されるのか? こうした認識の根本的なテーマをめぐって、著者は、「事実」と「物神」を区別する西洋近代の存在論をフェティシズムにまつわる概念を用いて、批判的に検討する。本書は難解とされるラトゥールの方法論が簡潔に展開されており、読者への案内書でもある。



Art and the new ecology of the anthropocene as a "dithering time"

新しいエコロジーとアート
「まごつき期」としての人新世
ブルーノ・ラトゥール / 著
鈴木 葉二 / 訳
2022-05 以文社

現代人類学・現代思想における存在論的転回の中核をなしたブルーノ・ラトゥールが語る「戦争と平和」とは。ラトゥールは、グローバルな多文化主義の背後に潜む「単一自然」の問題性を指摘し、「多自然」主義にもとづく政治を提唱する。



War of the worlds - what about peace

諸世界の戦争：平和はいかが?
ブルーノ・ラトゥール / 著
工藤 晋 / 訳
2020-10 以文社

本書は、「人新世」「資本新世」とよばれる新しい環境下で生きてきた自然、政治、社会、情報、精神面での変化に対する現代美術の応答と変容、そして、これらを伝えるキュラトリアル実践に関して、キュレーター、哲学者、人類学者らによる領域横断的なアンロロジーである。



Reassembling the social An introduction to actor-network-theory

社会的なものを組み直す
ブルーノ・ラトゥール / 著
伊藤 嘉高 / 訳
2019-01 法政大学出版局

主体/客体あるいは人間/自然といった近代的世界認識を超え、脱中心的なネットワークとして社会を記述するアクターネットワーク理論。現代の知見をふまえてアップデートされたラトゥール社会学の核心。

Philippe Descola

フィリップ・デスコラ

著名な人類学者であるとともに21世紀の重要な思想家にも数えられるフィリップ・デスコラ。今こそ「地球の政治」を考えるときであると訴えます。

人類学者、コレージュ・ド・フランス教授、社会科学高等研究院(EHESS)研究主任。国立科学研究センター(CNRS)の金メダル受賞。コレージュ・ド・フランスにて「自然の人類学」講座の教授を務める。ヒバロ族のアチュアル部族を対象としたフィールドワークをもとに、著書 Les Lances du Crépuscule を「人間の土地」叢書より刊行した。著書に Par-delà nature et culture(2005年・邦訳『自然と文化を越えて』)がある。



Par-delà nature et culture

自然と文化を越えて
《人類学の転回》

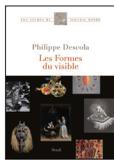
フィリップ・デスコラ／著
小林 徹／訳
2020-01 水声社

アチュアル族のインディオとの出逢いをきっかけに、地球規模で広がる四つの存在論を横断し、非人間をも包摂する関係性の分類学を打ち立てる。近代西欧が発明した「自然／文化」という二分法を解体し、人類学に《転回》をもたらした記念碑的著作。



Ethnographies des mondes à venir
来るべき世界の民族誌(未邦訳)
フィリップ・デスコラ／著
2022 Seuil

バンド・ドシネ作家のアレサンドロ・ピニョッキとフィリップ・デスコラによる対談集。自然と人間の関係を根本から見直す方法を、社会、国家、存在論、経済といった様々な角度から、挿絵を交えて論じる。



Les Formes du visible
見えるものの形(未邦訳)
フィリップ・デスコラ／著
2021 Seuil

見えるものや想像できるものは、習慣によって限定される。ユピック族のマスク、木の皮に描かれたアポリジンの絵、17世紀オランダの絵画などの造形作品を比較することで、デスコラは表現の人類学理論を展開する。



Une écologie des relations
関係の生態学(未邦訳)
フィリップ・デスコラ／著
2019 CNRS éditions

デスコラは南米アマゾンのアチュアル族とともに暮らすことで、文化と対立する自然の概念が西欧特有のものであることに気づいた。本書では、デスコラが自身の足跡を振り返りながら「関係の生態学」へと読者を誘う。



Diversité des natures, diversité des cultures
フィリップ・デスコラ／著
2021 Bayard



Le sport est-il un jeu?
フィリップ・デスコラ／著
2022 Robert Laffont

Baptiste Morizot

バティスト・モリゾ

近年注目を集める若き思想家です。

哲学博士およびアグレジェ(高等教育教授資格者)。エクス=マルセイユ大学にて哲学科の准教授を務める。人間と他の生物との関係性について、野生動物の足跡をはじめとするフィールドワークに基づいた研究を行う。



Sur la piste animale

動物の足跡を追って

バティスト・モリゾ／著
丸山 亮／訳
2022-10 新評論

動物たちの「地政学」や「共存の論理」が人類に呼びかけるもの。私たちの視線と行動を大切なほうへと向き直させてくれる5つの「追跡」の物語



S'enforester
入森する(未邦訳)
アンドレア・オルガ・マントヴァニ、
バティスト・モリゾ／著
2022 D'une rive à l'autre

ヨーロッパ最後の原生林、ジャウオヴィエジャの森を訪れた2人の著者。写真と文を通して、人間と森の関係のあり方を考える。



Raviver les braises du vivant : un front commun
生物の熾火を掻き立てる(未邦訳)
バティスト・モリゾ／著
2020 Actes Sud * Wildproject

生物多様性の崩壊はときに大聖堂の火事にたとえられるが、絶えず再生と創造を繰り返す生物の世界は、火が消えた後に残る熾火に近い。本書では、森林保護や自然農法のフィールドワークを通じて、生物の火を掻き立てる視点を探る。



Pour une théorie de la rencontre : hasard et individuation chez Gilbert Simondon

出会いの理論のために(未邦訳)
バティスト・モリゾ／著
2016 Vrin

偶然は個を形成する要素であるとともに、変化の発生を可能にする環境でもある。本書では、20世紀のフランス人哲学者ジルベール・シモンダンが提唱した個体化の理論をもとに、出会いの理論を模索する。



Pister les créatures fabuleuses
バティスト・モリゾ／著
2019 Bayard



Les diplomates : Cohabiter avec les loups sur une autre carte du vivant
バティスト・モリゾ／著
2016 Wild project

日仏会館・フランス国立日本研究所の フランス人研究員による推薦図書

Les recommandations des chercheurs français de l'Institut français de recherche sur le Japon à la Maison franco-japonaise



Bernard Thomann
Directeur

ベルナール・トマン(所長)
歴史学者。日本における労働の歴史を研究。フランス国立東洋言語文化大学(イナルコ)日本史学科教授、日仏会館・フランス国立日本研究所所長。



La Composition des mondes

諸世界の構成—
ビエール・シャルボニエとの対話(未邦訳)

Philippe Descola / 著
2014 Flammarion

西欧社会が主張してきた世界の画一性に反して、フィリップ・デスコラは、動植物、事物、山や谷、空や大地といった非人間と人間とが異なる形で交流する複数の社会が存在することを説きます。その帰結として、デスコラは西欧文明が非人間との間に築いてきた、人間を窮地に追い詰めることになりかねない関係について自問するよう私たちに促します。

人新世について、その地政学的な発生過程と現代の戦略地政学上の問題を論じた著作です。



Géopolitique d'une planète déréglée

気候変動下の地政学(未邦訳)

Jean-Michel Valantin / 著
2017 Seuil

L'évènement anthropocène

人新世とは何か「地球と人類の時代」の思想史

クリストフ・ボヌイユ、ジャン＝バティスト・フレスコ / 著
野坂しおり / 訳
2018-03 青土社



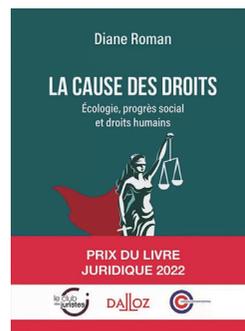
Guillaume Ladmiral
Chercheur

ギヨーム・ラドミラル(研究員)
政治学博士、日仏会館・フランス国立日本研究所研究員。
外因性ショックに対する社会の復元力(レジリエンス)を規定する政治・社会・経済的要因について研究。



Adrienne Sala
Chercheuse

アドリエヌ・サラ(研究員)
日仏会館・フランス国立日本研究所にて社会科学を研究。研究では、司法化のプロセス、法律の専門家の役割、公共政策の策定に関する分析を行う。特に日本における社会・環境問題に関心を持つ。



La cause des droits

権利闘争—エコロジー、社会発展、人権(未邦訳)

Diane Roman / 著
2022 Dalloz

環境保護のための武器として権利をどのように用いることができるかが、多くの事例とともに解説されています。



Atlas du développement durable

地図とデータで見るSDGsの世界ハンドブック(新版)

イヴェット・ヴェレ、ポール・アルヌー / 著
蔵持 不三也 / 訳
2022/11/1 原書房

持続可能な開発に関する地理学とその複雑で多層的な問題を論じた必読の一冊です。



Raphael Languillon
Chercheur

ラファエル・ランギヨン＝オセル(研究員)
地理学博士およびアグレジェ(高等教育教授資格者)。環境の専門家ではないものの、都市計画に関する研究をきっかけに持続可能性の問題に取り組む。批判的政治経済学の観点から、都市化の動きとその空間的正義を問う。

Chapitre 2

Ralentir, contempler, s'émerveiller

歩みを緩める、 思いにふける、 感嘆する

ここでいったん、足を止めてみませんか？

目を閉じて雨音に耳を傾け、散歩して五感を刺激し、ジオノ、ルソー、ユゴー、トゥルニエといった有名な作家の作品を読んで、自然の情景に思いをめぐらせてはいかがでしょうか。

絵本や図鑑も紹介しています。

ゆっくりと時間を取って、お子さんと一緒に、作品の豊かさを味わってみてください。

次に、水をたっぷり



Ralentir

歩みを緩める

現代の暮らしは人々に、睡眠時間や夢を見る時間を削り、より速く進むよう要求します。地球について考え行動し始める前に、まずは休息や時間をかけることの大切さを教えてくれる作品に触れてみてください。

La pluie, le soleil et le vent : une histoire de la sensibilité

雨、太陽、風 一天候にたいする感性の歴史
アラン・コルバン／著
小倉 孝誠／訳
2022-08 藤原書店

天候への感情の様式の誕生と変化を辿る。雨、陽光、風、雪、霧、雷雨といった天候への愛憎や政治的・芸術的関心は、歴史上いつごろ出現したのか。その誕生と変化、そして「天気予報」に一喜一憂する現代的感性までを、歴史学、文学、地理学、社会学、民族学の論者が多角的に問う。

La fraîcheur de l'herbe

草のみずみずしさ——感情と自然の文化史
アラン・コルバン／著
小倉 孝誠、綾部 麻美／訳
2021-05 藤原書店

“感性の歴史”の第一人者による、「草」と「人間」の歴史。

L'invention du quotidien. Tome 1 : Arts de faire

日常実践のポイエティック
ミシェル・ド・セルトー／著
山田 登世子／訳
2021-03 筑摩書房

読書、歩行、声。それらは分類し解析する近代的知が見落とす、無名の者の戦術である。領域を横断し、秩序に抗う技芸を描く。



La vie intense. Une obsession moderne

激しい生
トリストラン・ガルシア／著
栗脇 永翔／訳
2021-09 人文書院

本書は現代思想界でもっとも注目される才能のひとり、トリストラン・ガルシアの初の翻訳である。近代を強さ=激しさに取り憑かれた時代とし、強迫観念のように刺激を求め続ける人間の生と思考を鮮烈に抉り出す。

Trois huttes

三つの庵
クリスチャン・ドゥメ／著
小川 美登里、鈴木 和彦、鳥山 定嗣／訳
2020-12 幻戯書房

H・D・ソロー、パティニール、芭蕉 孤高なるユートピアンな芸術家たちがこしらえた「庵」の神秘をめぐる随想の書。世界中のすべての隠遁者における《仮住まいの哲学》、孤独な散歩者のための《風景》のレッスン。

Tombe de sommeil

眠りの落下
ジャン＝リュック・ナンシー／著
吉田 晴海／訳
2013-01 イリス舎

あなたが眠っているとき、そこで眠っているのは誰なのか？そこは、いったいどこなのか？ どのようにしてわれわれは眠るのか。そもそも何が眠っているのか。われわれが眠っているとき、われわれは、何と共に眠っているのか。眠り...はたして、その問いは可能なのか.....ジャン＝リュック・ナンシーが不可能な問いをどのように追い詰めて行くのか、彼の足跡を辿りながら、文字通り、迷宮の中へと足を踏み入れて行く、体感する一冊である。

Marcher la vie. Un art tranquille du bonheur

歩き旅の楽しみ
ダヴィッド・ル・ブルトン／著
広野 和美／訳
2022/7/1 草思社

本書はフランスの社会学者が、「歩いて移動する」という行為と、そこから生まれる感慨について味わいのある文章でつづった思索の書。自身もまた歩き旅の愛好者である著者は、これまでのみずからの経験に加えて古今東西のさまざまな物語の節も引用しながら、歩き旅の豊かな可能性について述べる。

読み返す

ここに紹介するのは、文学史に残る名作を著した作家たちです。ご存じの作品はありますか？ ジオノが描いた厳しいプロヴァンスの自然には、人間の思い通りにならない自然に対する作家の畏敬の念が感じられます。他の3冊の紹介作品には、複雑に重なり合った自然と社会の概念を紐解いていく楽しさがあります。

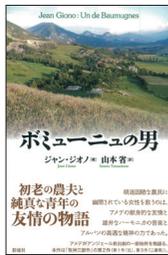


L'Homme qui plantait des arbres

木を植えた男
ジャン ジオノ / 著
寺岡 襄 / 訳

2015-10 あすなろ書房

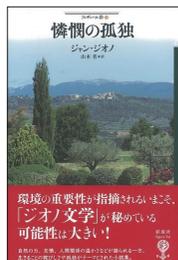
ただただかれは、ていねいに一粒ずつ、一粒ずつ、荒地にどんぐりを埋めこんでいった。かれは、カシワの木を植えていたのだ。たった一人で、荒れはてた地を緑の森によみがえらせた男の物語。



Un de Baumugnes

ボミュニユの男
ジャン ジオノ / 著
山本省 / 訳
2019-11 彩流社

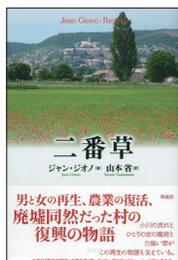
社会と隔絶したボミュニユ集落で孤立して暮らす人びと。主人公アルパンの奏でるハーモニカによって変化が現れる。社会の「外」にあるような世界の驚異を描く牧神三部作(第1作『丘』岩波文庫)に続く第2作。本邦初訳。



Solitude de la pitié

憐憫の孤独
ジャン ジオノ / 著
山本省 / 訳
2016-03 彩流社

環境の重要性が指摘されているいまこそ「ジオノ文学」が秘めた可能性は大きな意味をもつ。自然の力、友情、人間の交友の温かさなどが語られる一方、生きることの詫びしさや孤独がテーマの本書は、二十もの中編・短編から構成。



Regain

二番草
ジャン ジオノ / 著
山本省 / 訳
2020-04 彩流社

男と女の再生、農業の復活、廃墟同然だった村の復興の物語。小川の流れとひとりの女の魔術と力強い犁がこの再生の物語を支えている。「牧神三部作」の第三作。



Les rêveries du promeneur solitaire

孤独な散歩者の夢想
ジャン=ジャック・ルソー / 著
永田 千奈 / 訳
2012-09 光文社新書

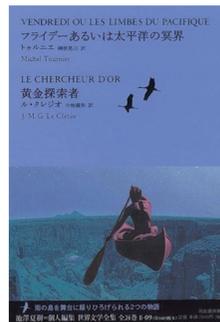
精神の自由な戯れ、理性と感性の狭間で浮かんでくるさまざまな想い。ここにはあの「偉人ルソー」はない。迫害妄想に悩まされたのち訪れた平穏のなかで書かれた、ルソー最後の省察。



Les travailleurs de la mer

海に働く人びと
ヴィクトル・ユゴー / 著
山口 三夫、篠原 義近 / 訳
2005 潮出版

『レ・ミゼラブル』が法律と人間の戦いであり、『ノートルダム・ド・パリ』が教義と人間の戦いであるのと同じく、『海に働く人びと』は自然の力と人間の戦いである。人間の内面の劇に眼をこらした雄篇。



Vendredi ou les limbes du pacifique

フライデーあるいは太平洋の異界
ミシェル・トゥルニエ / 著
榎原 晃三 / 訳
2009-04 河出書房新社

ロビンソン・クルーソーとフライデーのもう一つの物語。南海の孤島で遭難したロビンソンは、島を開拓し、食料の備蓄に努めるが、野生人フライデーの登場によってその秩序は一瞬のうちに崩壊する。文明と野蛮を双子のように描いた哲学小説。

Découvrir

発見する

とびだす絵本や図鑑やおはなしなど、子どもと一緒に楽しめる本を紹介します。周囲を取り巻く自然や、自然にとっての人間の立ち位置について、子どもの関心を高めるにはぴったりの作品です。



Inventaire illustré

観察が楽しくなる美しいイラスト自然図鑑〈全4巻〉

エマニュエル・チュクリエル、ヴィルジニー・アラジディ／著

泉 恭子／訳

2017-11 創元社

精緻かつみずみずしいイラストとともにおくる自然図鑑シリーズ。気鋭のフランス人イラストレーターが、世界の動植物をすどい観察眼でとらえ、精確なスケッチ画に描き出し、透明感あふれる鮮やかな水彩をほどこしている。写真機が発明されるより以前の、伝統的な博物画の手法を用いたイラストの数々は、いずれも多色刷りの銅版画を思わせる精巧さと、どこか懐かしいレトロな趣きを兼ね備えている。



Océan

Océan

海洋を冒険する切り絵・しかけ図鑑

エマニュエル・グランドマン、エレヌ・ドゥルヴェール／著

檜垣 裕美／訳

2022-03 化学同人

フランスで生まれた、レースのように繊細で美しい切り絵と、散りばめられた様々なしかけが、学ぶことを楽しくさせる、新感覚の「切り絵・しかけ図鑑」シリーズ。



Zooptique

仕掛絵本図鑑

動物の見える世界

ギヨーム・デュブラ／著

渡辺 滋人／訳

2014-11 創元社

猫はひどい近眼。牛と馬は真正面がよく見えない。鳥は人よりもよく見え、ヘビは動きを敏感に察知する。最新科学の成果とそれに基づく推測を交え描いた、世界で初めての視覚科学絵本。



Forêt des frères

楽園のむこうがわ

ノリタケ・ユキコ／著

椎名 かおる／訳

2021-06 あすなろ書房

カヤックに乗って島に上陸した二人の少年。やがて二人は、理想の家づくりを始めます。ひとりは、森と調和した家をもうひとりは森を開発し、都会的な家をも。そして1年後……。パリで活躍する注目の若き日本人アーティスト、ノリタケ・ユキコが描くふしぎな絵本。



Dans ma montagne

わたしのやま

フランソワ・オピノ／著

ジェローム・ベラ／イラスト

谷川 俊太郎／訳

2020-02 世界文化社

山に暮らす羊飼いと狼の生活は、敵か味方かという私たちが陥りがちな単純な二元論への疑問を投げかける。フランスでは『アンコリュプティブル賞』を受賞。



Plantes vagabondes

旅する植物(仮題)

エミリー・ヴァスト／著

さわの・まい／訳

2023年春刊行予定 悠書館

風に運ばれるたんぽぽ、ほふく茎を伸ばして移動するいちご、宙を舞うカエデ……様々な方法で植物たちは放浪し、繁殖する。14種類の植物の旅を描いた絵本。

Pour aller plus loin

日本未発売の本

邦訳出版社がまだ決まっていない、フランス語で読む書籍です。
自然と和解する人間を描いた写真集や絵本やおはなしを紹介します。



Permacité !
Olivier Dain-Belmont,
Fachri Maulanat
2022 Flammarion

パーマシティ(未邦訳)
オリヴィエ・ダン＝ベルモン／作
ファリ・モラナ／絵

「パーマシティ(持続可能都市)」に引っ越してきた
カミーユ。飼猫を追って、自然の素材とエネ
ルギーで機能する街を探索する。



**Madame hibou
cherche appartement**
Caroline Dorka-Fenech
2021 A pas de loup  ditions

ふくろうおばさん、アパートをさがす(未邦訳)
カロリーヌ・ドルカ＝フェネック／作
ジェラルディーヌ＝アリブ／絵

古い木に棲むふくろうおばさんが快適
な暮らしを求めてアパートを探す。物件
探しの大変さと、助け合いの精神を描い
た物語。



**Le petit guide
du recyclage**
Guillemette
Resplandy-Taï
2022 Actes Sud junior

リサイクル実践ガイド(未邦訳)
ギメット・レスブランディ＝タイ／作
ミュゾ／絵

子ども向けに書かれたリサイク
ルの指南書。8つの品目ごと
に、ゴミがどこからきてどこに
行くのかをわかりやすく解説。



**Maman les petits
bateaux**
Pauline Kalioujny
2022 Thierry Magnier

お母さん、小さなおふね(未邦訳)
ポーリーヌ＝カリウニ／作・絵

〈お母さん、小さなおふね〉という童謡の歌詞に
合わせて書かれた絵本。「小さなおふね」に
乗った少女がトロール船を追い払う!



**La For t de monsieur
Chip**
Patrick Pasques
2021 L'Atelier du poisson soluble

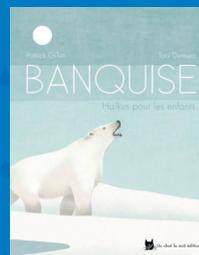
チップさんの森(未邦訳)
パトリック・パスク／作・絵

自然が大好きな発明家のチップさんがDIYで
森に家を建て、自然を改造していく物語。コミ
カルな語り口で人類による自然破壊を描く。

D'une petite graine verte
Mathias Friman
2018 Les fourmis rouges

一粒の小さな緑の種から(未邦訳)
マティアス＝フリマン／作・絵

鳥に運ばれて森にやってきた一粒の種が樹に
なるまでを描いた絵本。成長していく樹の視点
から、森の動植物との交流が語られる。



Banquise: haikus pour les enfants
Patrick Gillet
2021 Un chat la nuit

海氷(未邦訳)
パトリック＝ジレ／作、トニ＝デム＝ロ／絵

北極に暮らす目が不自由なイヌイットの
少年ナヌーク。海氷が溶け家を失いそうに
なったナヌークは、海鳥に助けを求める。

**Voyage d'une goutte
de pluie**
Daniel Mar, Kiko
2020 Tourbillon

雨粒の旅(未邦訳)
ダニエル＝マール／作、キコ／絵

雨粒に見立てた小さな銀玉をペー
ジの溝に沿って転がしながら読む、
遊べる絵本。地上に落ちた雨粒が
空に戻るまでの道のりを辿る。



CHAPITRE 3

Apprendre, comprendre, penser

学ぶ、 理解する、 考える

ヴェルサイユ宮の伝説の庭師アラン・バラトンの証言と、デジタル社会やレアメタルに関するギヨーム・ピトロン取材に共通する点はなんでしょう？

それは、いずれも人間が自然を独自に解釈し、自らの利益のために作り変えていることです。しかしどちらが自然を大切に、どちらが自然を破壊しているかは明らかです。この章では、環境に関する現代の様々な問題について考えをめぐらせてみましょう。

やがて芽が出て



Nature,

mieux la comprendre pour mieux vivre ensemble

自然とよりよく生きるために、自然をより深く理解する



ここで紹介する8冊の本にはあらゆる種類の動植物が登場します。庭師や哲学者たちが、物語や記録を通して生態系と生物多様性について語ります。



Eloquence de la sardine
はぐれイワシの打ち明け話
ビル・フランソワ／著
河合 隼雄／訳
2021-11 光文社

少年時代、イワシに話しかけられた(!)著者が読者に披露するのは、海の生き物たちが人間に語りたがっている“物語”。自然科学的な話題から歴史上のエピソードまで、海の魅力を余すところなく伝える海洋エッセイ。



Botaniste
ボタニスト
パリの標本館を築いた
植物学者たち
マルク・ジャンソン／著
シャルロット・フォーヴ／編
佐々木 ゆか、中原 毅志／訳
2020-10 タイブショップgプレス

マルク・ジャンソンがパリ国立自然史博物館に自らの半生を重ねあわせつつ、先人たちの業績と近代植物学の歴史をたどるエッセイ集。「植物の壁」で日本でもよく知られる現代のバトリック・ブランなど、有名無名のボタニストたちの事績をユーモアあふれる筆致で綴る。



La vie des plantes
植物の生の哲学
エマヌエーレ・コッチャ／著
嶋崎 正樹／訳
2019-09 勁草書房

世界に在る=世界と混合し、世界をつくる——動物学的である西洋哲学の伝統を刷新し、植物を範型とした新しい存在論を提示する。



**No signal
vivre au plus près
de la nature**
NO SIGNAL
街を出て、大自然の中で
暮らすことを選んだ
10人の生き方
ブリス・ポルトラーノ／著
山本 知子／訳
2022-06 日経ナショナル ジオグラフィック

10人の多くは、都会で働いたり学んだりしていたものの、あるとき、自然とともに暮らすことを決意する。彼らを訪ね歩き、ともに暮らし、それぞれの紆余曲折と、願ひ通りの日々を送る今を、美しい写真と文章にまとめた。



Le jardinier de Versailles
庭師が語るヴェルサイユ
アラン・バトロン／著
鳥取 絹子／訳
2014-03 原書房

庭園を溺愛した晩年のルイ十四世、ひとり静かに自然のなかで過ごすことを愛したマリー=アントワネット……世界一の庭園を造り上げた庭師たちの知られざるエピソードなど、ヴェルサイユ宮のベテラン庭師だから書ける、どんなガイドブックにも載っていない「裏」ヴェルサイユ。



Le Choix des plus belles fleurs
美花選
ピエール=ジョゼフ・ルドゥーテ／著
大場 秀章／訳
2016-02 河出書房新社

可憐なブーケやみずみずしい果実を含む美しい花の植物画144点を収録。マリー=アントワネットやジョゼフィーヌに愛された画家の最晩年の集大成にして傑作。大変貴重な肉筆画も特別収録。



Qu'est-ce qu'une plante
そもそも植物とは何か
フロランス・ビュルガ／著
田中 裕子／訳
2021-04 河出書房新社

人間や動物とは全然違う生命として生きる植物。死はあるのか、個体なのか中心はあるのか。植物の存在を徹底的に問う斬新なエッセイ。



**La nature - Notes.
Cours du Collège de France**
自然
—コレージュ・ド・
フランス講義ノート
モーリス・メルロ=ポンティ／著
松葉 祥一、加國 尚志／訳
2020-05 みすず書房

本書は、1956年から1960年にいたる〈自然〉を主題としたメルロ=ポンティのコレージュ・ド・フランス講義を、受講生のノートや著者自身の講義準備草稿をもとに再構成したもので、稀有の哲学者の思考の歩みを生々しく伝える、貴重な講義ノート。



Culture,

pour le meilleur et pour le pire

文化は最良への道しるべとも、最悪への道しるべともなる



ホモ・エコノミクス(経済人)が世界を蹂躪すれば、消費社会は栄え、デジタル技術、工業、集約型農業が勃興する……
現在の世界について考えるヒントを与えてくれる、手に取りやすい作品を紹介します。



La société de consommation ses mythes, ses structures

消費社会の神話と構造
ジャン・ボードリヤール / 著
今村 仁司、塚原 史 / 訳
2015-08 紀伊國屋書店

他人との差異を示すためのファッション、インテリア、自動車からメディア、教養、娯楽、余暇、美しさ・健康への強迫観念、セックス、疲労、暴力・非暴力まですべては、消費される「記号」にすぎない。時代を拓いた名著に新たに「索引」と幻の原書初版から、ボードリヤール自身による写真2点を追加。



Le voile d'Isis. Essai sur l'histoire de l'idée de Nature

イシスのヴェール：
自然概念の歴史をめぐるエッセー
ピエール・アド / 著
小黑 和子 / 訳
2020-01 法政大学出版

「自然は隠れることを好む」。ヘラクレイトスの謎の箴言から、25世紀にわたる西洋世界の自然探究が始まる。慎し深く身を隠す女神の真の相貌をめぐる、古代哲学から中世の神秘主義、ルネサンス以降の機械論的世界観から現代科学にいたるまでの人間の知が繰り返してきた思索の営みの物語。フーコーの信頼厚かったフランスの古典学者アド、初の邦訳。



L'enfer numérique

なぜデジタル社会は「持続不可能」なのか
ギヨーム・ビトロン / 著
児玉 しおり / 訳
2022-06 原書房

クラウド化のためのデータセンターが世界各地に作られ、データ送信のために海底を埋めつくす通信ケーブル。膨大な電力や資源が「デジタル化」へ注ぎ込まれる現代。「持続性」の見えないデジタル社会に答えはあるのか。



La guerre des métaux rares

レアメタルの地政学
—資源ナショナリズムのゆくえ
ギヨーム・ビトロン / 著
児玉 しおり / 訳
2020-03 原書房

レアメタルをめぐる各国の思惑からグリーンエネルギー政策の暗部、中国次第で揺れる市場…。「レアメタル地政学」の権威がさまざまな問題点をあぶり出したベストセラー！フランス経済省経済書籍賞受賞。



L'empire de l'or rouge

トマト缶の黒い真実
ジャン＝バティスト・マレ / 著
田中 裕子 / 訳
2018-03 太田出版

世界中で行われている産地偽装、大量の添加物や劣化した原料による健康被害、奴隷的に働かされる労働者などさまざまな問題を暴く。世界中で身近な食品であるトマト缶の生産と流通の裏側を初めて明らかにし、フランスでベストセラーとなった衝撃のノンフィクション！



Vache à lait : Dix mythes de l'industrie laitière

牛乳をめぐる10の神話
エリック・ドゥッソルニエ / 著
井上 太一 / 訳
2020-05 緑風出版

牛乳は医者や栄養士のあいだで論争的だった。牛乳は健康に良いと思われているが本当にそうなのか？牛乳をめぐる驚くべき真実を明らかにする。



La Bombe

原爆(仮題)
ローラン＝フレデリック・ボレ / 著
大西 愛子 / 監訳
2023-7 平凡社

1945年8月6日、広島に原爆が投下された。この爆弾は誰の手で、どのように製造され、広島に投下されることになったのか？コンゴの鉱山で採掘されたウランが辿った道筋を描いた450ページ超の大作バンド・デシネ。



Le mythe de la singularité, faut-il craindre l'intelligence artificielle

そろそろ、人工知能の真実を話そう
ジャン＝ガブリエル・ガナシア / 著
伊藤 直 / 監訳
2017-05 早川書房

人工知能(AI)は言うほどまだまだすぐでない。シンギュラリティは来ない。人類がAIに支配されるとのたまたま悲観論者信じるな！空前のAIブームに潜む「大うそ」を、フランス人哲学者が宗教論的アプローチを駆使してラディカルかつロジカルに暴き出す。



Apocalypse,

où va le monde ?

終末の訪れ？ 世界はどこに向かうのか



何千年も昔から、人類はことあるごとに大災害に見舞われてきました。しかし人新世の到来とともに、状況は急転しています。コロナウイルスのパンデミックも、さらに大きな危機の前触れにすぎないかもしれません。



Après la fin du monde : Critique de la raison apocalyptique

世界の終わりの後で

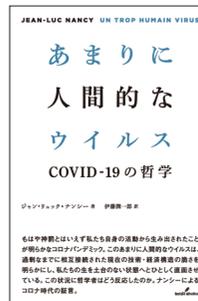
ミカエル・フッセル／著

西山 雄二、伊藤 潤一郎、伊藤 美恵子、横田 祐美子／訳

2020-03 法政大学出版局

核の脅威と地政学的緊張、環境破壊と地球温暖化——〈世界の終わり〉は、いまや宗教的預言でも科学的予測でもなく、今ここにあり身体的に知覚され経験されるカテゴリーである。〈世界の終わり〉まで生き延びるためではなく、〈世界の終わり〉とともに生きるために、政治的なもの、社会的なもの、人間的なもの、の交差する地点にあらわれる破局的な主題と対峙し、近代の諸概念を根源的に問い直す哲学的挑戦。

新生代第四紀完新世は終わり、人新生 (Anthropocene) が始まったとされる。近代が終焉に向かい、世界人口が減少すると予測されるいま、どのような時代を創るべきかを考える手がかりにしたい。(鬼頭 宏さん)



Un trop humain virus

あまりに人間的なウイルス

ジャン＝リュック・ナンシー／著

伊藤 潤一郎／訳

2021-07 勁草書房

私たちが混乱に陥れているコロナパンデミックを生み出したのは私たち自身の活動だ。このあまりに人間的なウイルスについて問う。



Pour un catastrophisme éclairé Quand l'impossible est certain.

ありえないことが現実になるとき

ジャン＝ピエール・デュビュイ／著

桑田 光平、本田 貴久／訳

2020-08 筑摩書房

「想定外」は、なぜ起こるのか？「知っている」ことが見えないくなるのはなぜか？ 合理主義や道徳哲学を超え、破局に向かい合うために必要な思考のプロトコルを説く。なぜ最悪の事態を想定せず、大惨事は繰り返すのか。経済が予防かの不毛な対立はいかに退けられるか。認識の根源を問い、抜本的転換を迫る警世の書。



La marque du sacré

聖なるものの刻印

ジャン＝ピエール・デュビュイ／著

西谷 修、森元 庸介、

渡名 喜庸哲／訳

2014-01 以文社

政治哲学から経済哲学、認知科学のみならず、現在、フランス放射線防護原子力安全研究所 (IRSN) 倫理委員会委員長という原子力を含めた自然科学など、実に広範な学問分野にわたる現代知性の泰斗による思考の集大成。



La médecin une infectiologue au temps du corona

「女医」カリン・ラコンブ

感染症専門医のコロナ奮闘記

カリン・ラコンブ、フィアマルザーティ／著

大西 愛子／訳

2021-04 花伝社

大混乱のバリの医療現場を追ったバンド・デジネ。未知の感染症と旧態依然の男社会で、フランスで一番有名な女性医師が未知の脅威と向き合った記録。



CHAPITRE 4

dire, agir, faire

口に出す、 行動する、 やってみる

未来の世界は私たち一人ひとりの手に委ねられています。世界を変えるかどうか、切望する新しい暮らし方を生み出すかどうかを決めるのは私たち自身です。新しい暮らし方は、日々の生活を変化させるとともに、個人や集団の行動に具体的な形となって現れます。この章では、変化を訴える著者の作品、行動のアイデアをくれる作品、食物や美食について考え直すきっかけを与えてくれる作品を紹介します。

蕾が膨らんでくる



Des auteurs engagés

変化を訴える著者

環境保護のために声を上げる作家はまだ少数です。

今回はその中から3人の著者を紹介します。

そのうちの一人は、何よりもまず「共に生きる」ことの大切さを訴えています。

この「共に生きる」という考えを、私たちの周りの生物や物にも拡大してみましょう。



Dans les forêts de Sibérie, février-juillet 2010

シベリアの森のなかで
シルヴァン・テッソン／著
高柳 和美／訳
2023-01 みすず書房

冒険家で作家の著者がバイカル湖畔
の小屋で半年を過ごした日記。孤独
と内省のなかで人生の豊かさを見つ
め直す、現代版『森の生活』。

私ができる事は出来ないであろう冬のバイカル湖での生活を通しての、
自然に対する視点や経験をいくらか共有させてくれそうな本。

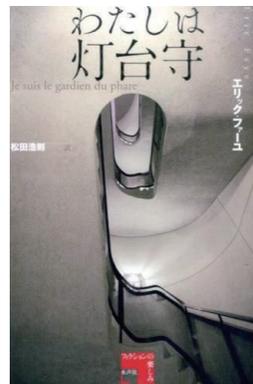
(福岡大樹さん)



Comment je suis devenu Géographe

私はどうして地理学者になったのか
シルヴァン・アルマン／編
荒又 美陽、立見 淳哉／訳
2017-10 学文社

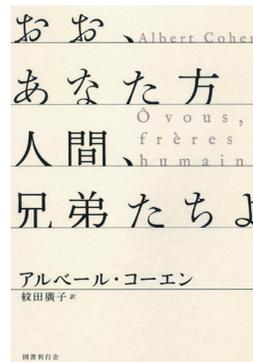
地理学者とは何者か。フランスの第一線で活躍
している12人の地理学者たちのインタビュー集。
日本も多分に影響を受けているフランス地理学
の新たな発見とともに、地理学者への道程には
東西を問わない研究者の生き様が垣間見られ
る。地理学を志す人にまずは読んでもらいたい
一冊。



Je suis gardien du phare

私は灯台守
エリック・ファーフユ／著
松田 浩則／訳
2014-08 水声社

大海原に佇立する灯台。そこにはひとりの灯台守。孤独の
中で彼は書く。自問し、自答する。訴える。苦悩する。妄想す
る……。世界から隔絶された男の魂の叫びと囁きを、陰鬱
でありながらユーモラスに綴る表題作をはじめ、不条理で
幻想的、ときに切なノスタルジックな珠玉の9篇を収録。



Ô vous, frères humains

おお、あなた方人間、兄弟たちよ
アルベール・コーエン／著
紋田 廣子／訳
2020-06 国書刊行会

作家、政治家、外交官として修羅の世紀を生きた
著者の21世紀への遺言。思いやりと教示の書。

Des idées pour agir

行動のアイデア

抵抗、公正、保護、健康、倫理、社会参加、責任、
いずれも普段の会話ではあまり登場しない言葉です。
これらの言葉を自分のものにするためのガイドとなる作品を紹介します。



Vers une démocratie écologique. Le citoyen, le savant et le politique

エコ・デモクラシー
—フクシマ以後、
民主主義の再生に向けて
ドミニク・ブル、ケリー・ホワイトサイド／著
中原 毅志／監修、翻訳、松尾 日出子／訳
2011-12 明石書店

なぜ、こんなことになってしまったのか。フクシマを経てもなお、わたしたちは科学の万能性を信じ、同じ道を歩み続けるしかないのか。いちど立ち止まり、この事態を招いた社会、国の仕組みについて考えるべきではないか。本書が問いかけるものは、そこにある。



Tous écolos!
みんなの地球を守るには?
エリーズ・ルソー／著
ロベール / イラスト
服部 雄一郎 / 訳
2022-06 アノニマ・スタジオ

地球はこんなに傷ついているけど、今からだっておそくない！アート感覚で環境問題を学べるフランス児童書の日本語版。環境汚染や天然資源などの様々な問題をわかりやすく解説し、生活に役立つ行動をアドバイス。



Petit manuel de résistance contemporaine

未来を創造する物語
現代のレジスタンス実践ガイド
シリル・ディオ／著
丸山 亮、竹上 沙希子／訳
2020-04 新評論

「人を動かすのは警告ではなく物語である」。人々を世界的な環境行動へと導いた映画『TOMORROW』の監督が、もう一つの行動を呼びかける。

Le monde sans fin. Miracle énergétique et dérive climatique



だれも教えてくれなかった
エネルギーの本当のはなし
(仮題)
ジャン＝マルク・ジャンコヴィシ／作
クリストフ・ブラン／作・絵
芹澤 恵、高里ひろ／訳
2023年11月頃 河出書房新社

バンド・デシネ作家とエネルギーの専門家による共作。気候変動や人間が環境に及ぼす影響など、今地球に起きている変化を描く。



Traité d'économie hérétique

「経済学」にだまされるな!
一人間らしい暮らしを取り戻す10の原則
トマ・ボルシェ／著
岩澤 雅利／訳
2021-12 NHK出版

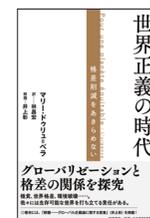
政策の決定に対して影響力をもつ「主流派」の経済学者たちは、自分たちの提言を科学的な分析に基づいた唯一の選択肢であるかのように見せているが、それは実際には、特定の時代の特定の層に利する「歪んだルール」に過ぎない。「ヨーロッパの怒れる経済学者」のひとりである著者、トマ・ボルシェが、「主流派」エコノミストの主張を検証し、身近な問題について自分の頭で考えるための指針を示す。フランスで5万部を売り上げた警世の書、待望の邦訳!



La fabrique des pandémies : préserver la biodiversité, un impératif pour la santé publique?

なぜ新型コロナウイルスが、
次々と世界を襲うのか?
パンデミックの生態学
マリ＝モニク・ロバン／著
杉村 昌昭／訳
2022-05 作品社

なぜ「新型コロナ」が出現したのか。今後、さらに破局的な「新たなウイルス」が人類を襲うのか。パンデミックへの真の対策は－。世界最先端の専門家が、新型コロナウイルスの実態と発生メカニズムを明らかにする。



Pour une planète équitable

世界正義の時代
マリ＝ドゥリュ＝ベラ／著
井上 彰／解題 林 昌宏／訳
2017-03 吉田書店

グローバル化と格差の関係を探究。極貧、世界格差、環境破壊…。我々には生存可能な世界を打ち立てる責任がある。巻末には、「解題-グローバル正義論に関する覚書」(井上彰)を掲載!



Pour sortir de la société de consommation

「脱成長」は、
世界を変えられるか?
セルジュ・ラトゥーシュ／著
中野 佳裕／訳
2013/5/1 作品社

欧州に広がる「脱成長」型ライフスタイル、中南米、インド、アフリカの農民・先住民による自律自治運動…グローバル経済に抗し、「真の豊かさ」を求める社会が今、世界に広がっている。「脱成長」の提唱者ラトゥーシュによる「経済成長なき社会発展」の方法と実践。

La gastronomie, pilier de notre engagement durable

持続可能な取り組みの柱となる食

食は地球が抱える大きな問題の一つです。人間だけでなく、世界と食を分かち合うことを学ばなければなりません。環境保護とも切り離すことのできない、よりよい食・美食を扱った作品を紹介します。



Ni cru ni cuit
発酵食の歴史
マリ＝クレール・フレデリック／著
吉田 春美／訳
2019-02 原書房

先史時代から現代まで、歴史、考古学、科学の側面から世界各地の発酵食品を考察する。最新の考古学上の発見や、世界の伝説や伝承話を交えながら、発酵の世界の奥深さと豊かさを多角的に論じる。



Les ignorants
ワイン知らず、マンガ知らず
エティエンヌ・ダヴォード／著
大西 愛子／訳
2022-07 サウザンブックス

自然派ワインの巨匠と社会派バンド・デシネ作家、異質な二人の交流と発見を描く実録マンガ。フランスでは累計27万部を売り上げ、およそ14言語で翻訳出版された話題作が待望の邦訳化。



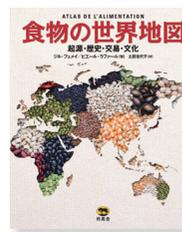
Soif d'aujourd'hui.
La compil des vins au naturel
奇跡の自然ワインを！
ヴァン・ナチュラルの名作300本
シルヴィ・オジュロ
アントワヌ・ジェルベル／著
神奈川 夏子／訳
2019/9/1 エクスナレッジ

「これはただのガイドブックではない」気高い使命を持った、すばらしい人びとが登場してもらおう。効率第一のつまらない農業を変えようと、畑での重労働に耐え、微笑みを絶やさず、自然な栽培・自然な醸造に挑み続ける革新的なワイン生産者たち。



Histoire de l'alimentation
食の歴史
ジャック・アタリ／著
林 昌宏／訳
2020/2/1 プレジデント社

欧州最高峰の知性が徹底的に分析！食に関する歴史、未来を知れば、政治、社会、テクノロジー、地政学、イデオロギー、文化、快楽等も一挙にわかる。



Atlas de l'alimentation
食物の世界地図
ジル・フューメー／著
土居 佳代子／訳
2021-02 終風舎

食物を介して、世界は繋がっている！食べ物が出てきた道は、世界各地の文化、交易、気候や地理と深い関わりがある。豊富な地図や写真とともに語られる、世界の食材と味わいの物語。



La bière c'est pas sorcier
ビールは楽しい！
グレック・オベール／著
河 清美／訳
2019-10 パイインターナショナル

ビールとは何か？ビールの選び方、ビールの味わい方、ビールの生産地、食材との組み合わせなど、様々な情報を網羅した絵で読むビールの教科書。



Le petit manuel des gâteaux de voyage
美しい焼き菓子の教科書
メラニー・デュビュイ／著
三本松 里佳／訳
2022-10 パイインターナショナル

フランス発！基礎から学ぶパティシエによる簡単レシピ&テクニック41種。生地作り・デコレーション・グラサージュなど焼き菓子の基本10種、パウンドケーキ・マドレーヌ・クッキーなどのレシピ31種、道具&テクニックを美しい写真とイラストで徹底解説。簡単&本格フランス焼き菓子とバリエーションが満載の1冊。

温故知新で食の歴史を知ることで新しい発見、取り組みが見えてきそうな感じがします。
(中塚直人さん)

Pour aller plus loin

日本未発売の本

邦訳出版社がまだ決まっていない、フランス語で読む書籍です。人間に恵みを与えてくれる自然、その自然と再び生活をともにするためのアイデアをくれる作品です。



Le Dernier Chant

Sonja Delzongle

2021 Denoël

最後の歌 (未邦訳)

ソニア・デルゾングル / 著

世界各地で次々と謎の死を遂げる動物たち。ウイルス学者のシャンはひとり謎に立ち向かう。人間の恐怖を描いたスリラー作品。



De pierre et d'os

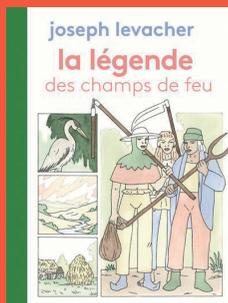
Bérengère Cournut

2019 Le Tripode

石と骨 (未邦訳)

ペランジェール・クルニユ / 著

流氷が割れて家族と離れ離れになってしまったイヌイットの少女。他のイヌイットと交わりながら北極圏で生きる少女の成長の物語。



la légende des champs de feu

Joseph levacher

2022 Magnani

焔が原の伝説 (未邦訳)

ジョゼフ・ルヴァシェ / 著

強欲な支配者に乗っ取られた焔が原を後にする3人のエルフ。自然とのつながりを取り戻した3人は、故郷に帰り戦うか煩悶する。



Petit traité d'écologie sauvage

Alessandro Pignocchi

2017 Steinkis

野生のエコロジー小論 (未邦訳)

アレサンドロ・ピニョッキ / 著

もし総理大臣がアマガエルにご執心だったら? 西欧文明に代わり先住民のアニミズムが基準となる世界を描いたバンド・デシネ作品。



RÉ:HABITER. Réutiliser, transformer, expérimenter

Olivier Darmon

2021 Editions Alternatives

「再び」住む (未邦訳)

オリヴィエ・ダルモン / 著

古くなった建物を手直しし、再び住めるようにする試みを紹介する本。新たな視点からエネルギー転換に取り組む。



Le miel, une autre histoire de l'humanité

MARIE-CLAIRE FRÉDÉRIC

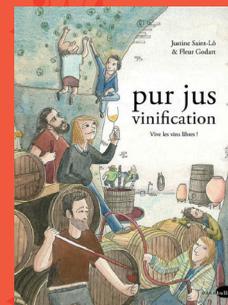
ALBIN MICHEL

Le miel, une autre histoire de l'humanité

Marie-Claire Frédéric

2022 Albin Michel

蜂蜜をめぐる人類の歴史 (未邦訳)
マリー=クレール・フレデリック / 著
先史時代、人類は命がけて蜂蜜を採集していた!? 地球の生態系を支えるミツバチと人類の文明の歴史、その交点に迫る。



Pur jus : la vinification nature

Fleur Godart

2019 Marabout

澄んだ果汁 (醸造編)

—自由なワインに乾杯! (未邦訳)

フルール・ゴダール / 作、
ジュスティヌ・サン=ロ / 絵

前作『澄んだ果汁』の続編。ナチュラルワインの醸造方法について、フランスの醸造家たちに取材する。2冊あわせて全体像が見えてくる。



Fermenter presque tout avec presque rien

Juliette Patissier

2022 Ulmer

少ない材料で何でも発酵させてみよう (未邦訳)
ジュリエット・パティシエ / 作・絵

少ない材料を使って自宅で発酵を楽しむためのイラスト本。発酵や微生物についての説明、成功するコツ、レシピなどを紹介。



もう十年近くグリーンランド北部の探検をつづけてますが、海水の状態は年々悪くなっていると感じます。地元のイヌイット猟師がいうには、昔にくらべて海水温があがり氷の厚みがなくなったそうです。氷に中途半端な強度しかないせいで、強風が吹いたり沖からうねりがはいただけで、簡単に崩壊します。

去年、一昨年と二年つづけて真冬に強烈な北風が吹き、村の前の海水が全部流されたことがありました。犬橇で活動するには非常に不安定な状態となり、イヌイットたちも近頃は遠くに旅することはありません。私自身、グリーンランドから犬橇で海峡をわたり、隣のカナダ・エルズミア島を旅することをめざしていますが、肝心の海峡が凍らないことが多くなり、いまだにこの目的は果たせていません。

気候変動は非常にむずかしい問題で、個々人にできるのは生活をシンプルにすること以外にないと思っています。つまりエネルギーを使わず、大量生産大量消費の生活からなるべく距離をとること。北極に通いつづけたこともあり、イヌイットのように狩猟しながら簡素な生活をおくることが将来の夢となりました。地球と調和した暮らしをすること、それを表現することが、自分にできる最大の貢献なのではないかと思っています。

角幡 唯介さん(作家・探検家)

新しい暮らし方に目覚める

フランスの本を通して考えるエコロジー

責任編集 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス
クロエ・ベクリオー 西口由紀
翻訳 竹上沙希子、丸山亮
デザイン 本多り子 (asian voice)
印刷 モリモト印刷
発行日 第一版 2023年1月31日

本冊子に掲載した書籍は、東京日仏学院のメディアテークで閲覧頂けます。また、本冊子で紹介した書籍の邦訳出版を希望される出版社様は、助成金制度もございますので、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランスの書籍・グローバル討論部門までご連絡下さい。
dg.debat.contact@institutfrancais.jp



フランス国立書籍センター
翻訳助成プログラム



在日フランス大使館/アンスティチュ・フランス
翻訳出版助成金

Liberté
Créativité
Diversité



在日フランス大使館/アンスティチュ・フランスより、ご協力を頂いた出版社様、書店様に心より感謝申し上げます。

パートナー機関



出版社



イリス舎 X-Knowledge NHK出版

